

■大浦慶 幕末の長崎で製茶海外輸出を開拓して巨富を得、維新の志士らも支援したが、横浜開港で凋落。

おおうらけい

シボク事件・1828＝ 長崎で、250年も油商を営み油座総代をつとめる〔大浦屋〕の娘佐恵と婿養子大浦太平次の娘に生まれる。

滑稽+人情本 1835＝ 7歳：賀古市郎右衛門の次男大五郎が婿養子として大浦家に入るが、

大塩平八郎乱1837＝ 9歳：大五郎が死去し、

大量の輸入油に押され、油屋町のどこの油商も経営難に陥り、大浦家の財政も傾く。

それに追い打ちをかけるように、

順天堂始・・・1843＝15歳：大火が発生、大浦家も大損害を受け、この時、大浦家再興に尽くそうと決意。

天保改革終・・・1844＝16歳：母から勧められて、天草の庄屋の息子幸次郎を婿に迎えるも、気に入らず、祝言の翌日に追い出し、以後、死ぬまで独身を貫きとおすこととなる。

阿部正弘首座1845＝17歳：

孝明天皇・・・1846＝18歳：

この間、油商に見切りをつけ、茶の輸出を計画、

おそらく、長崎に住む佐賀藩御用達商野中元右衛門の力添えを得、

ペリー来航・1853＝25歳：\*通詞品川藤十郎に連れられ出島入り、オランダ人テキストルに嬉野茶の見本託し、欧米へ送ってもらう。

安政大地震・1855＝27歳：

松下村塾・・・1856＝28歳：\*見本を見たイギリス商人オールドから大量注文が入る。嬉野茶だけでは足りず、九州一円の茶の産地を巡り、やっとのことで1万斤を集め、アメリカに輸出され、日本茶輸出貿易の先駆けとなる。

安政の大獄・1859＝31歳：開港以後、順調に発展、イギリスやアラビアにも輸出されるようになり、

桜田門外変・1860＝32歳：

遣欧使節・・・1861＝33歳：アメリカで南北戦争が勃発し、一時的に輸出は停滞するが、

生麦事件・・・1862＝34歳：母が死去。

禁門の変・・・1864＝36歳：

薩摩藩士密航1865＝37歳：終結するや、爆発的に増え、

薩長同盟・・・1866＝38歳：\*長崎からの輸出はピークに達し、この前後10年、大浦家の全盛期となって、名が知れ渡り、野中元右衛門と旧知の大隈重信を通じて、坂本龍馬・松方正義・陸奥宗光らと親交、

明治維新・・・1868＝40歳：〈明治維新〉によって、

貿易の拠点が横浜に移り、外国人には、九州産の釜煎り茶より静岡産の蒸し茶の方が好まれたことから、衰退に向かった上、

廃藩置県・・・1871＝43歳：希代の詐欺師熊本藩士遠山一也がオールドと煙草15万斤の売買契約を結んだ際、恩人品川藤十郎からも勧められて、保証人となったのがつまずきのもととなり、遠山は手付金を受取ると煙草は1俵も渡さず逃亡、

学問のすすめ1872＝44歳：\*オールドから訴えられ、自らも遠山・品川を告訴するが、品川を庇う県から不当な責任を負わされ、家財を差し押さえられて信用失墜、大浦家は没落。

明治6年政変 1873＝45歳：

その後、横浜に移住、大隈重信はじめ新政府高官となったかつての志士らに助けられ、

初の民間工場1875＝47歳：おそらく大隈重信の力添えで、高島嘉右衛門らと官営横浜製鉄所の拝借人になったり、

琉球処分・・・1879＝51歳：元アメリカ大統領のグラント将軍が長崎に寄港した際、国賓として艦上に招待され、長崎各界の名士に交じって唯一の女性という名誉に浴し、

・・・・・・1880＝52歳：連名で、海軍省から軍艦〔高雄丸〕払い下げを受けて利益を得るなどし、

明治14年政変1881＝53歳：

新体詩抄・・・1882＝54歳：この頃、長崎に戻り、

秩父事件・・・1884＝56歳：病に臥す。県令石田英吉が農商務省の権大書記官岩山敬義に、慶が危篤状態であるため生きているうちに賞をあげてほしいと要請、農商務卿西郷従道から受賞の知らせを電報で伝えられ、茶業振興功勞表彰を受けた直後に、没した。借金は死ぬまでに完済していたとされる。